



# XBRLの最新動向と 日本銀行における取り組み

XML1.0勧告10周年記念イベント「XML Today & Tomorrow」

主催 XML コンソーシアム

2008年3月5日

日本銀行金融機構局  
金融データ管理担当 和田芳明

*Transforming Business Reporting*

## Part 1.








# XBRLの最新動向

# 1. 世界におけるXBRLの採用状況

## 地域組織のある国(正会員)

 オーストラリア	 カナダ	 ドイツ	 国際会計基準審議会 (IASB)
 日本	 オランダ	 ニュージーランド	 イギリス
 アメリカ	 アイルランド	 スペイン	 韓国

## 地域組織のある国(準会員)

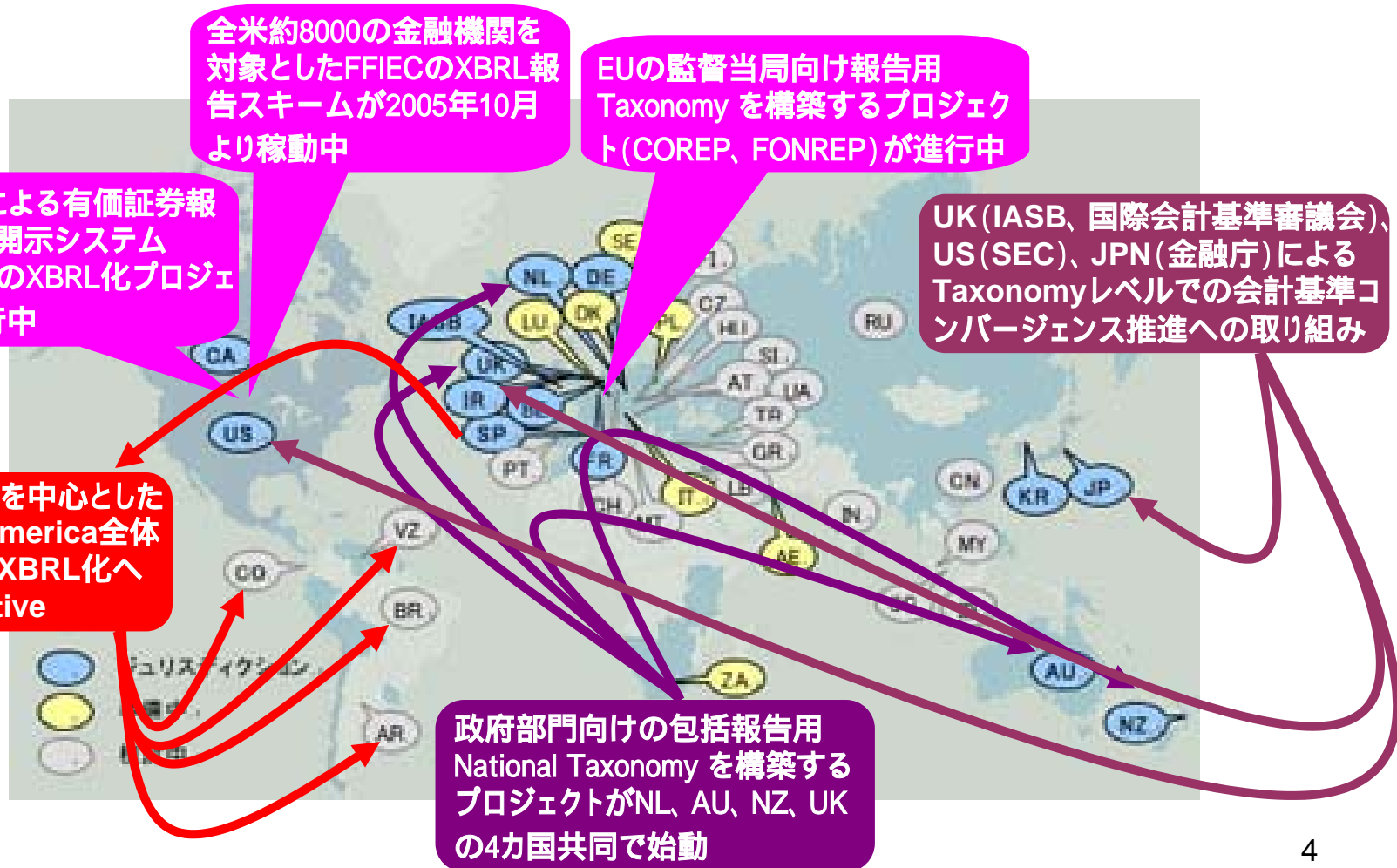
 ベルギー	 フランス	 デンマーク	 南アフリカ
 スウェーデン	 UAE	 ポーランド	

## 地域組織はないが、実用化に取り組み始めている、ないし関心を表明している国

ポーランド、スイス、フィンランド、ノルウエー、アイルランド、ギリシャ、イタリア、ポルトガル、韓国、中国、香港、台湾、インド、シンガポール、インドネシア、マレーシア、タイ、インド、アルゼンチン、コロンビア、ブラジル、ベネズエラ、チリ、他

## 2. 世界における最近の主なプロジェクト

### 国境を越えた共同プロジェクトが活発化





## 3. 日本における最近の主なプロジェクト

### 東京証券取引所

- ・適時開示データ(決算短信1枚目)の提出フォーマットにXBRLを採用(「新TD-Net」、2003年4月稼働開始)。
- ・EDINETのXBRL化にあわせ、XBRLによる公開にも対応の予定。

### 国税庁

- ・国税の電子申告に際し、決算書部分のXBRLでの提出に対応(2004年2月より受入開始)。

### 金融庁

- ・有価証券報告書等の電子開示システム(EDINET)へのXBRL導入に向け取組中(2008年度稼働開始の予定)。

### 東京三菱UFJ銀行

- ・e-Taxデータを用いた審査システムを稼働中。

## Part 2.

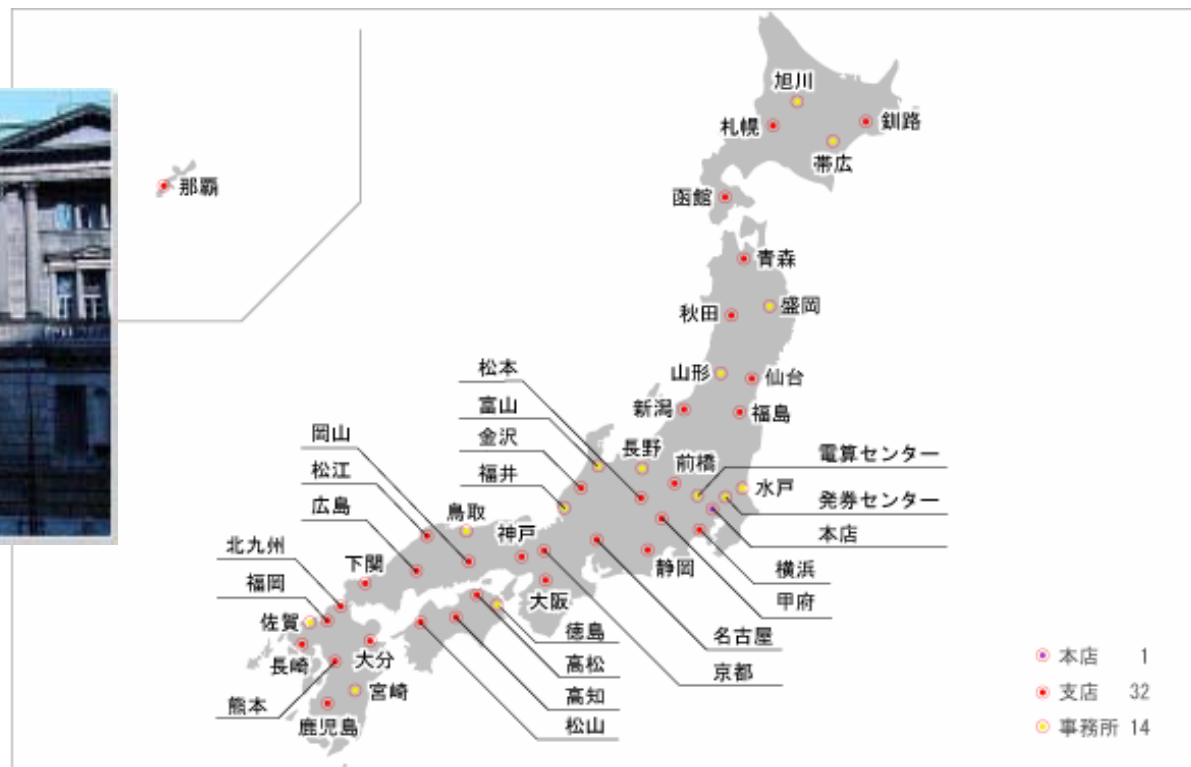
# 日本銀行におけるXBRLへの取り組み

# 1. 日本銀行の概要

- 日本の中央銀行、1882年設立
- 全国に32の支店

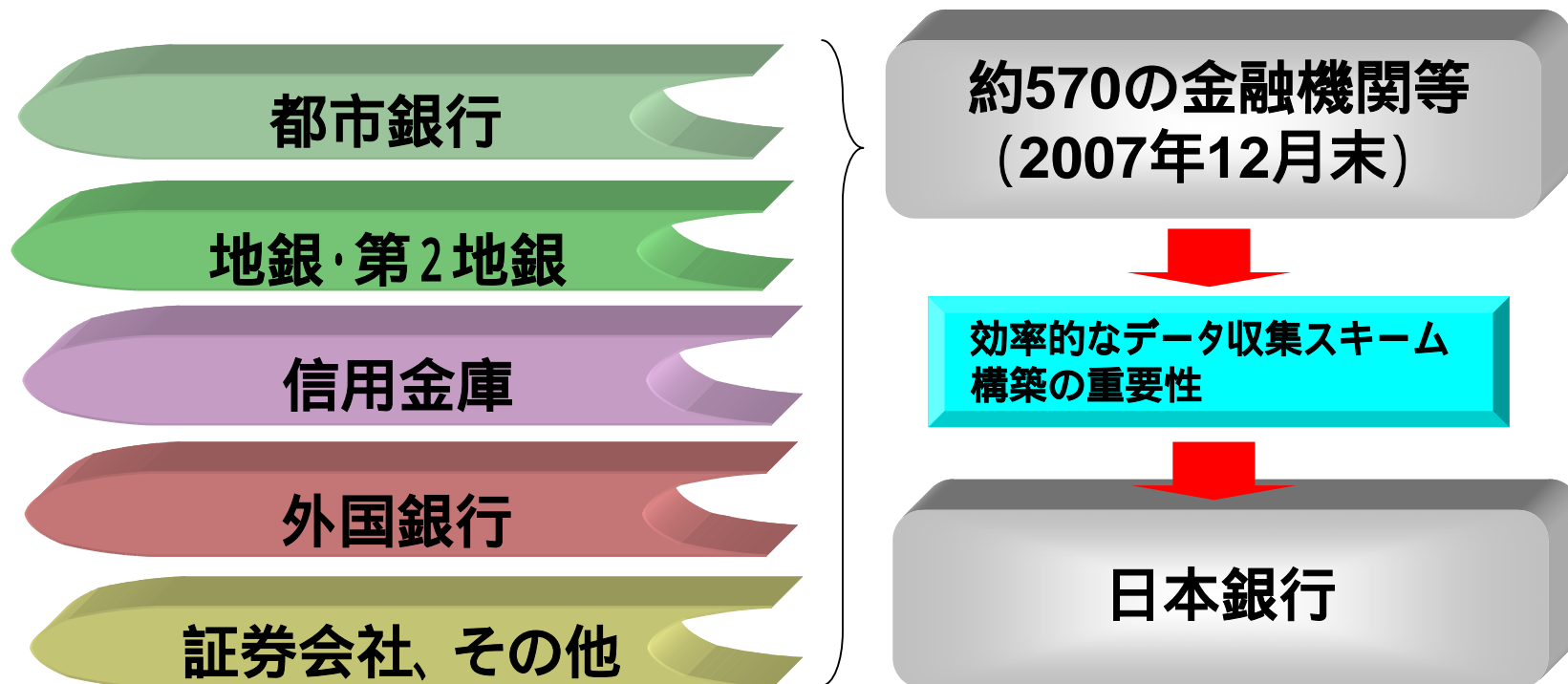


本店(東京)



## 2. 日本銀行によるモニタリングの対象金融機関等

約570の金融機関から、日次、週次、月次、年次など様々な期間の、多様なデータを収集している。







### 3. 日本銀行におけるXBRLプロジェクトの目的

---

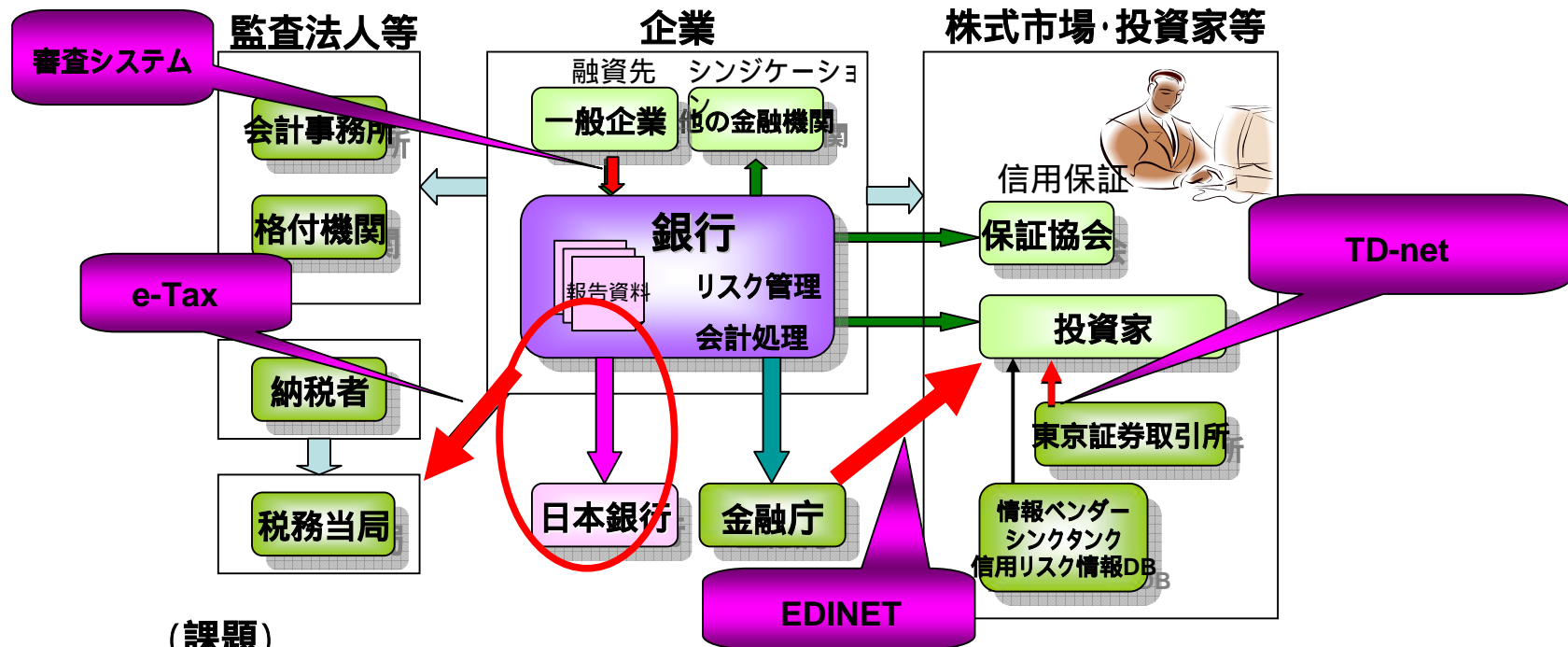
#### 1. 日本銀行にとって

日本銀行内部におけるデータ処理負担の軽減、日本銀行内ユーザーに対するデータの早期利用開放の実現等によるデータの収集・処理効率の改善。

#### 2. 社会にとって

金融インフラ全体における情報交換効率改善への寄与と、金融システム高度化の実現。

# 金融システムの高度化に向けて(情報サプライチェーンの効率化とXBRL)



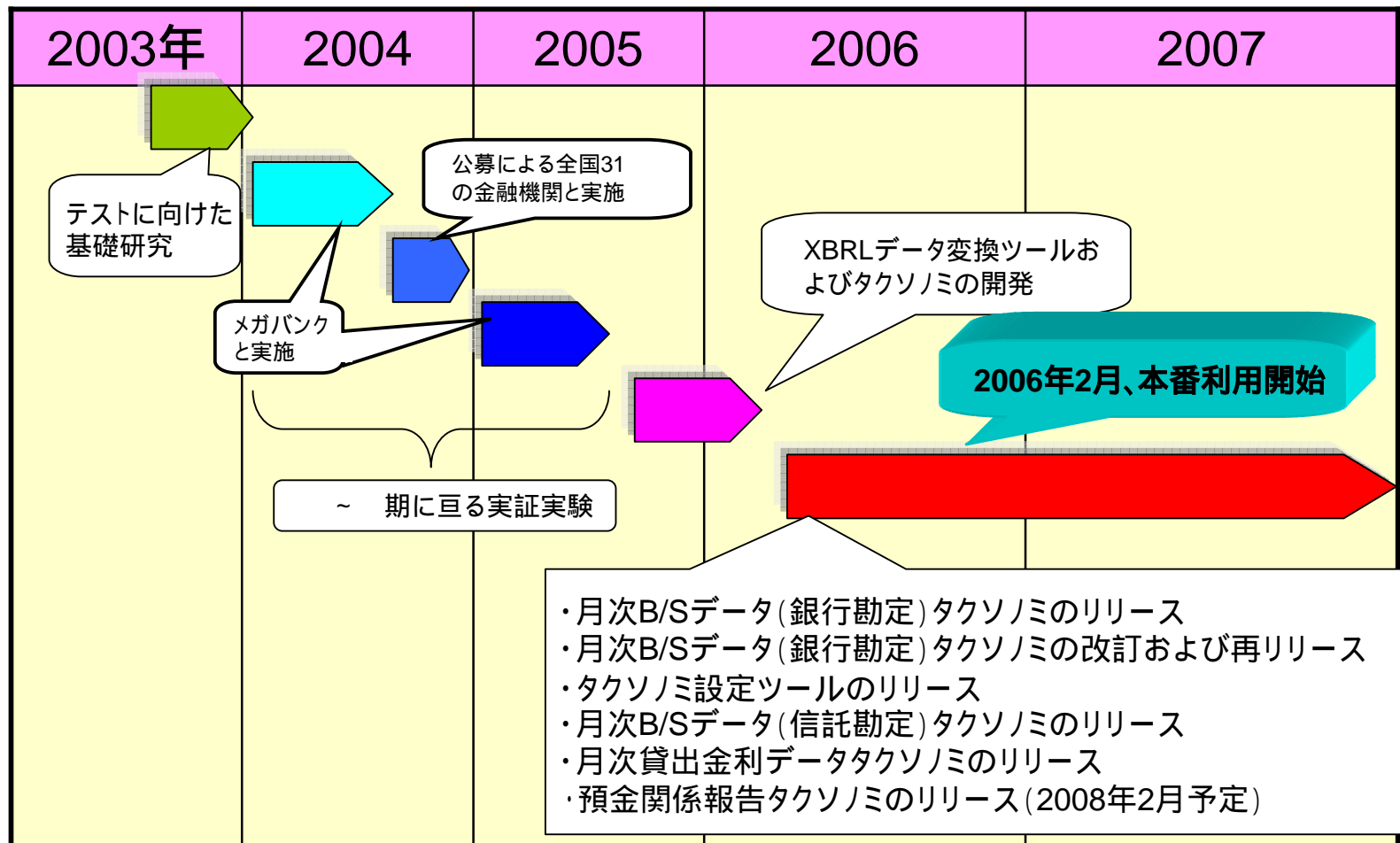
## (課題)

- ・ 電子化されている財務情報でも、ファイル形式によっては、必ずしも他のコンピュータで再利用することが容易ではないこと。
- ・ このため、同じような財務情報が、紙や電子ベースで何度もやり取りされていること。



- ・ XBRLを活用することで、情報の再利用性が高まり、授受コストの低下が期待可能
- ・ その結果として、金融情報インフラの効率化、金融システムの高度化が期待可能

## 4. 日本銀行におけるプロジェクトの歩み





## 5. 日本銀行のXBRL報告スキームの特徴 (1)

1. データ変換用ツール、通信インフラなど必要な仕組みは全て日本銀行が無償で提供

金融機関側には開発負担なし。

2. 金融機関は、外部の第三者の助けを借りることなく、XBRLデータを生成可能(日本銀行と金融機関の間で全ての処理が完結)

高いデータセキュリティを確保。

3. 最新の技術仕様に準拠し、かつ、**Formula-Link**を用いた**Pre-validation**を実装することで高いデータ精度を確保

金融機関、日本銀行双方にとってデータ処理負担が軽減。



## 5. 日本銀行のXBRL報告スキームの特徴 (2)

### ・Formula-Linkとは何か？

財務諸表の各項目間の合計・内訳関係、大小関係などのビジネスルールを記述し、そのルールに合致しているか否かを評価する機能。エラーチェック等に有効。タクソノミの機能の一つとして提供。

### ・なぜFormula-Linkなのか？

XBRLはデータ交換やデータ再利用のための有力な技術。しかし、それだけでは、提出者にとっての利用メリットに乏しい。

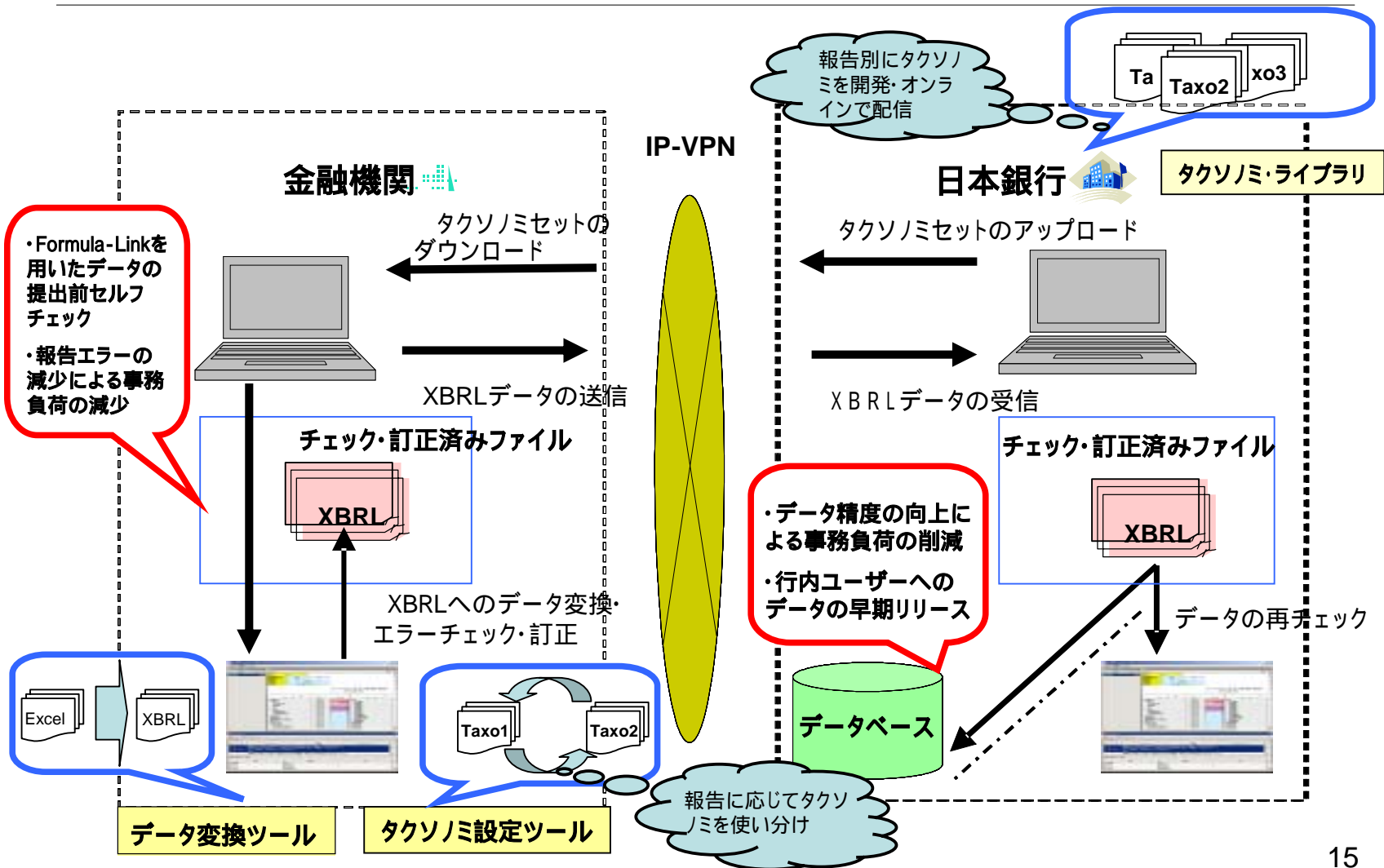
Formula-Linkにより、日本銀行への提出前に、報告データのエラーチェックを簡便に行えれば、提出者の事務負担が大幅に軽減されるはず。

その意味で、Formula-Linkは、XBRLの有効性を一段と高める極めて重要な機能であり、日本銀行の報告スキームに不可欠な技術。

# フォーミュラリンクによるエラーチェック機能のイメージ

フォーミュラチェック							
第1部 【概説】							
1. 【主要な指標などの推移】							
(1) 指標							
年次	10	11	12	13	14	15	16
年月	1999-03	2000-03	2001-03	2002-03	2003-03	2004-03	2005-03
売上高	10,000,000	20,000,000	3,000,000	40,000,000	50,000	6,000,000	7,000,000
経常利益	555,555	111,111	222,222	33,333	444,444	666,666	777,777
当期純利益	555,555	111,111	222,222	33,333	44,444	77,777	666,666
2. 【沿革】							
XXXXXXXX XXXXXX							
<b>エラー一覧</b>	(式)と(式の日本語表示<日本語メッセージ>)を一覧表示						
	売上高 - 経常利益 > 0		売上高 ひく 経常利益 は 0より大きくなければいけません				
<b>コメント一覧</b>	四捨五入処理を実施しています						

# 6. 日本銀行におけるXBRLを用いた報告スキーム





## 7. 実働開始後2年間の評価 (1)

---

### 1. システムトラブル・ゼロ

日本銀行から配布した XBRL データ作成ツールはノー・トラブルで稼動。

報告スキーム全体のフィージビリティの高さを確認。

### 2. XBRLでの提出率は100%

XBRLでの提出は義務化されていないが、金融機関の理解・協力により、XBRL化の対象となった報告データのXBRLでの提出率は100%。

新しい報告スキームに対する金融機関の理解、習熟も着実に前進。





## 7. 実働開始後2年間の評価 (2)

### 3. 現行タクソノミの改訂・再リリース、新規タクソノミのリリースも順調に実現

2006年5月には、会社法の改正に伴い、タクソノミを改訂。その後も随時タクソノミ改訂を実施。

信託勘定の月次バランスシート・タクソノミ、貸出金利タクソノミ等、新規のタクソノミを開発し、配布。BS/PL以外のデータにも範囲を拡大。

### 4. 金融機関、日本銀行双方における報告効率の改善

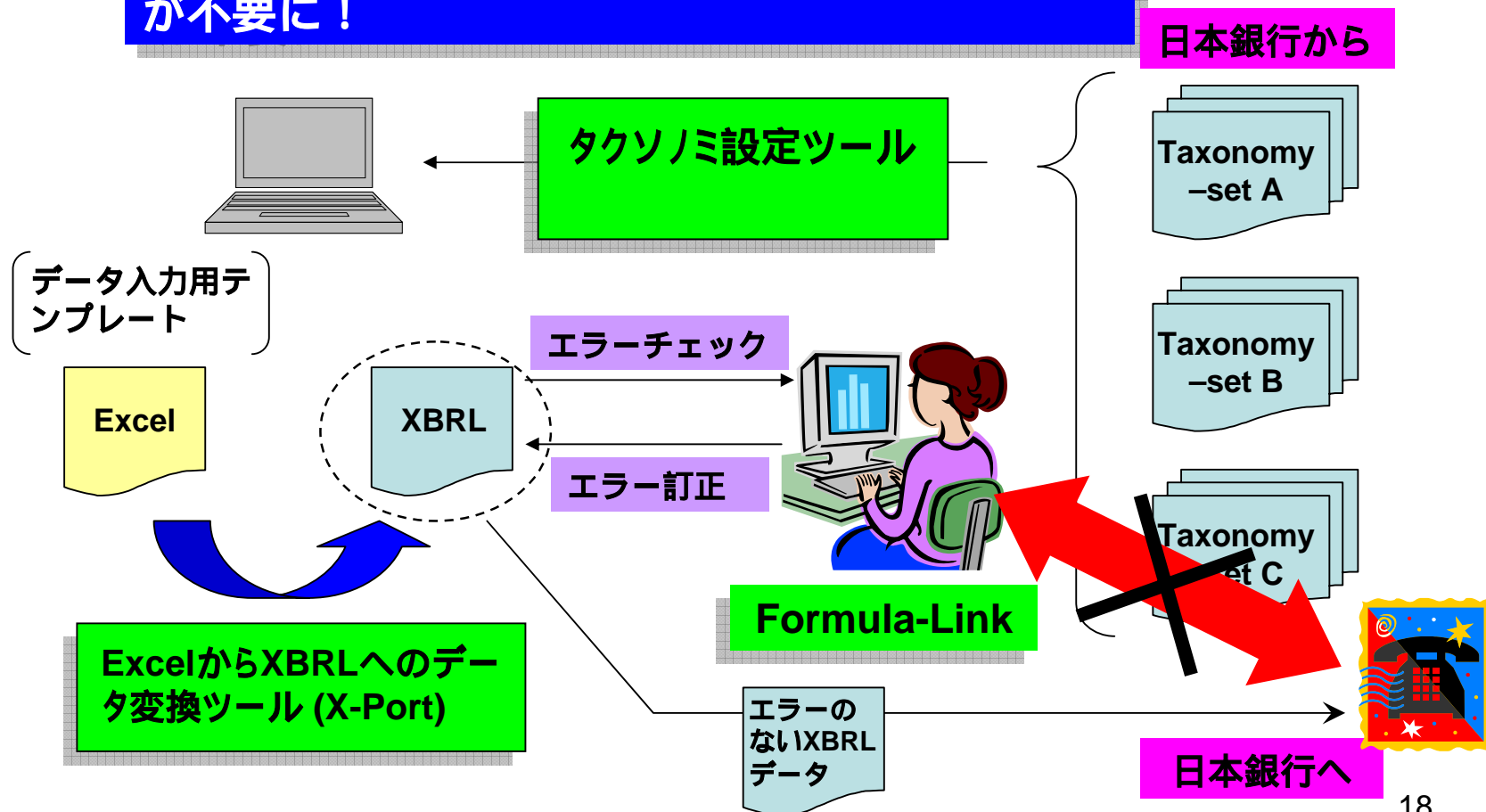
Formula-Linkの機能により、データ精度が向上。

その結果、金融機関における報告作業、日本銀行におけるデータベース管理作業双方における負荷の軽減。

また、日本銀行内部における早期データリリースも実現。

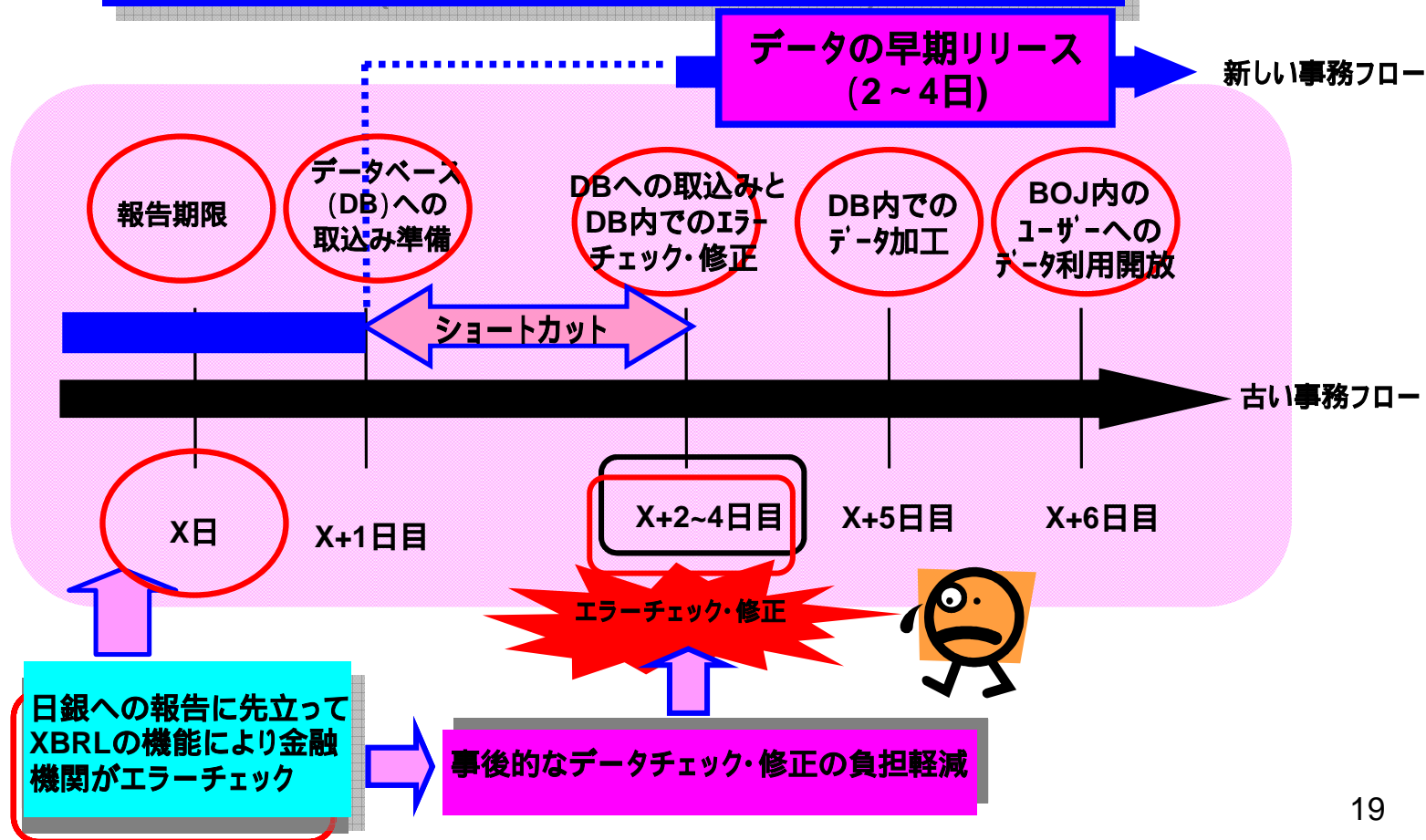
## 8. 具体的な事務効率の改善 (1)

電話による事後的なエラー確認と訂正プロセスが不要に！



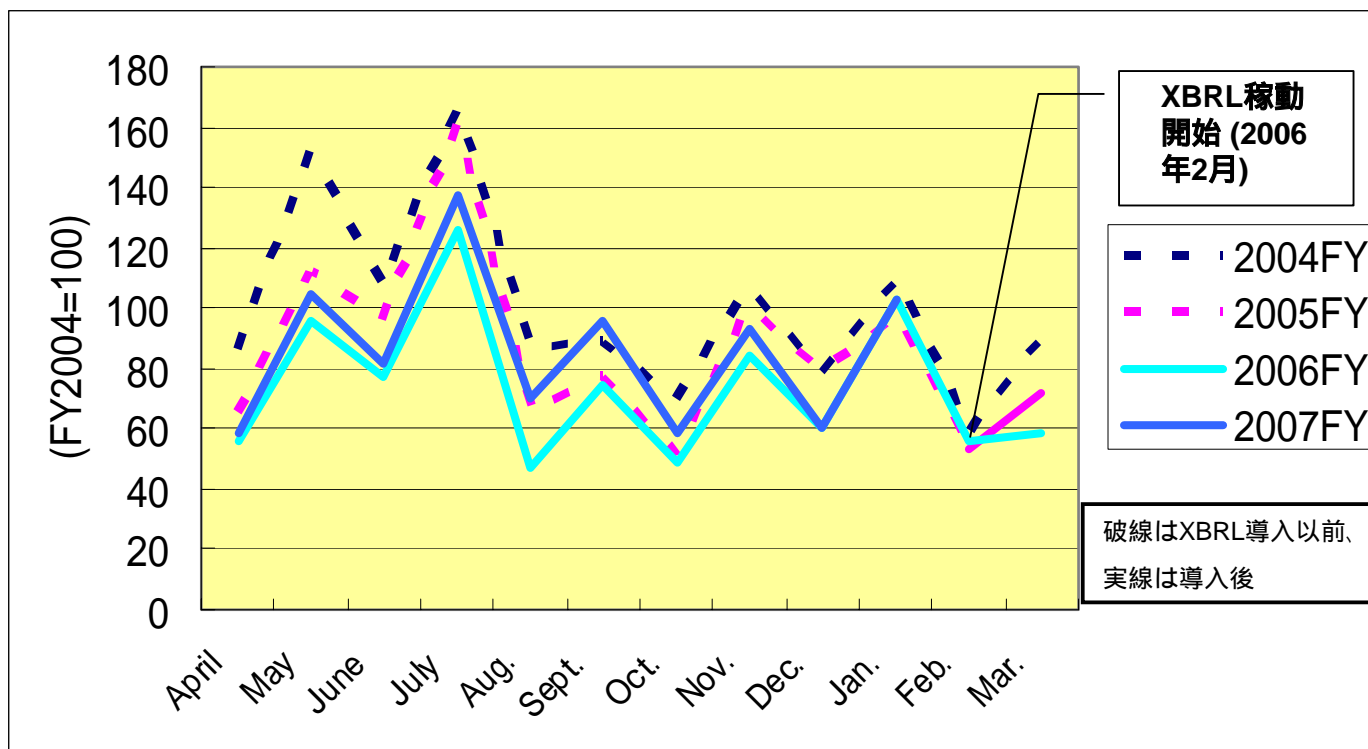
## 8. 具体的な事務効率の改善 (2)


### 日本銀行内部におけるデータ処理フローの改善 (月次B/Sデータのケース)



## 8. 具体的な事務効率の改善 (3)

### データベース保守チームにおけるパートタイム労働力の推移





## 8 . 具体的な事務効率の改善 (4)

---

**DEMO of the BOJ's XBRL tool**



## 9. 次への課題

### ✓ 最新スペックに対応したタクソノミー構造の高度化

Formula-Link と Dimensions を用いた新しいタクソノミーの開発

### ✓ XBRL形式に対応した新しいデータベースの構築

タクソノミーとインスタンスの関係、バージョニングなどの検討課題

### ✓ 蓄積したXBRLデータの活用スキームの検討

タクソノミーとインスタンスの関係、バージョニングなどの検討課題



## 10. 実務利用を目指す際の留意点(1)

### プロジェクトを構成する三大要素;

- ✓ メンテナンスの容易さやパフォーマンスに配慮したタクソミの構築
- ✓ 誰にでも容易に操作できるデータ生成ツールの開発
- ✓ 運用面に配慮した持続可能な報告スキームの構築



## 10. 実務利用を目指す際の留意点(2)

さらに、プロジェクトを円滑に進めるためには次の3点への配慮が必要；

✓ ステップ・バイ・ステップ

✓ 社会的な理解と、協力

✓ 絶えざる技術的進歩への努力



ご静聴有難うございました

**END OF PRESENTATION**